

# 主な地方創生関連事業の取組み ～北部拠点活性化事業～ (平成26年～)

資料2-2

## 地方先行型交付金事業

総事業費：13,841,000円  
※国交付金全額。

## 各種事業

### 平成27～28年度

築比地地区にある、老人福祉センターと農村トレーニングセンターを北部地区の拠点として整備し、老人福祉センターは「北部サービスセンター」として平成28年度より新たに開設された。

#### ○北部サービスセンター（旧老人福祉センター）

多世代交流に向けた環境整備

⇒ 平成28年度から取扱いを開始した窓口業務

- ・各種証明書の発行（住民票、印鑑登録等）
- ・環境関係（粗大ごみ処理券、指定袋等）
- ・施設利用受付

#### ○農村トレーニングセンター

老朽化に伴い、改修工事を実施。

同センター内に北部地域子育て支援センターを開設。

### 平成29年度

北部サービスセンター前の屋外トイレ設置。

⇒ 子供から高齢者まで多世代が利用できる施設環境が整った。（ハード面）

ハード整備が完了したことで、  
今後はソフト事業を重点的に実施する。

# 主な地方創生関連事業の取組み

## ～地域公共交通資源と「道の駅」の制度を活用した公共交通強化事業～

(平成27年～)

資料2-2

### 地域活性化・住民生活等緊急支援交付金 (地方先行型交付金) 事業

総事業費：20,088,000円

※うち、国交付金額：20,000,000円

### 概要

- 松伏町人口ビジョン及び松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定過程で実施した町民意識調査では、人口減少対策として「公共交通の利便性の向上」、「働きながら子育てができる環境の整備」が特に求められている。
- 町では、現在町内唯一の国道となる「一般国道4号東埼玉道路」が整備進行中で、同道路沿線の「新市街地区」に企業誘致を進めている。併せて、地域資源を活かした産業振興及び災害時の拠点、町内外からの人で賑わい、余暇を楽しめるコミュニティ施設として、道路整備と一体的に行う「道の駅」制度の活用を検討。
- 当町は鉄道がないが、複数の民間事業者によるバス路線網が構築されている。こうした状況は当町の強みであり、将来に渡ってこれらの公共交通を存続していくことが重要となっている。
- 強みを活かし、弱みを克服する対策として、企業誘致を進める新市街地区にバス路線を延伸し、交通結節点となるバスターミナルの設置及び「道の駅」制度の活用を検討を一体的に行う。
- これらの取組みを合わせ行うことで、地域の賑わいや生活を楽しむ場所の創出及び町内バス交通の維持及び利便性のさらなる向上を図る。

↓  
調査業務実施

平成27年～28年度

### 新市街地プロジェクト

平成30年度的主要取組み予定

産業団地の整備を推進するため、地権者との用地交渉や都市計画の変更を行うとともに、道の駅構想の実現に向けて施設の検討等を進め、雇用と賑わいを創出する。

また、職住近接による新たな人口増加を目指し、基盤整備について地権者との意見交換等を行う。

併せて、町内に進出する一定要件の企業へ町民の雇用に対して奨励金を交付し、町民の雇用促進に努める。



# 松伏町シティプロモーション戦略

(平成29年～)

資料 2 - 2

## 概要

### 平成29年度

松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「先進的プロモーションによる都市の形成」を進めることとし、戦略的にシティプロモーションを実施し、まずは町の認知度を上げてファミリー世帯の定住・呼び込みに注力することとしている。

また、町内外の方へ積極的にシティプロモーションを行うためには、既存の情報発信ツールの活用の見直し及び新たな広報媒体や新たなPR方法の導入を検討し、より効果的な手法を用いて情報発信を行う必要があることから平成29年12月に策定した。

なお、町内外の方へ効率的にシティプロモーションを行うために、既存の情報発信ツールの活用の見直しや、新たな広報媒体の導入など、発信すべき内容と効率的な情報発信手段に主眼を置いて、戦略を策定することとし、情報発信力の強い若い世代を策定委員とした。

## 策定委員会

官 (役場若手職員)  
学 (大正大学学生)  
言 (埼玉新聞社) で構成。

## 取組み

### 平成30年度

Instagram→  
(平成30年1月～)



←まつぶしPR大使  
AKB48 チーム8  
高橋 彩音さん  
(平成30年5月委嘱)

# 主な地方創生関連事業の取組み ～「まつぶし逸品」開発事業～ (平成 29 年～)

資料 2 - 2

## 埼玉県ふるさと創造資金

地域資源や強み等を活かして地域づくりに取り組む市町村に対して財政的支援を行う県の制度。

総事業額：9,962,000円

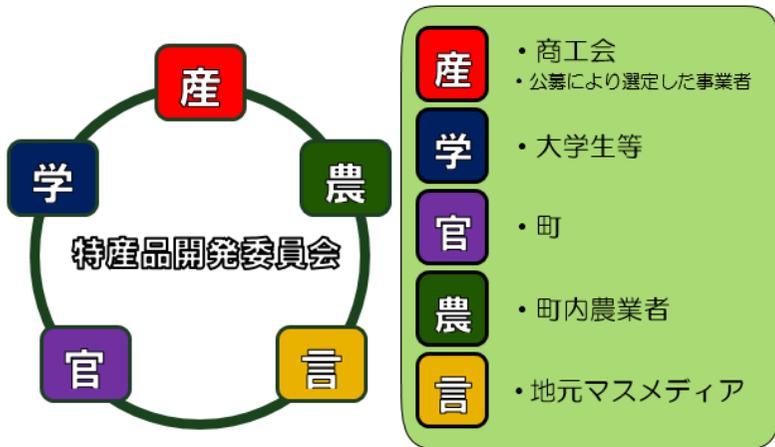
(※うち、県補助金額：4,800,000円)

## 開発

転入人口が増えない主な要因は、「町の魅力発信不足」「町の認知度不足」と分析。

そこで、周辺市に比べ農業が盛んな特色を生かし、町の米や野菜などの農産物を活用した特産品開発を実施することとなった。

⇒ 「まつぶし逸品開発委員会」\*を立ち上げ、松伏町の地域資源（米・野菜）を活用した「まつぶし逸品」を開発した。



\*産（町商工会、町内の事業者）、官（町）、学（大正大学）、農（町内農業者）、言（埼玉新聞社）が連携。

## まつぶし逸品商品

製造者がプードル洋菓子店に決定し、開発商品の検討を行った。松伏町で採れる農産物の代表格である『米』を使用した商品を検討した。

その後、埼玉新聞社と試作品アンケート等について業務委託をし、試食の意見を反映させて試作を繰り返した。

### ○米粉マカロン（まかろん）

松伏産の米粉を原料とした、昔ながらのマカロン。

味は玄米・しょうが・にんじん・ほうれんそう・カレーの5種類。

### ○糀ジャム（甘酒を使った調味料）

町内で300年以上続く、金杉糀屋が製造している甘酒（松伏産米を原料）を使用した調味料。



こめろん

円筒入り（8本） 500円（税抜）  
袋入り（6本） 300円（税抜）



糀ジャム

80g 瓶入り 850円（税込）

※平成 30 年 4 月 13 日から販売を開始。

販売場所を拡大し、町内5ヶ所・町外1ヶ所にて販売。（6月1現在）

# 主な地方創生関連事業の取組み ～松伏町多世代交流学習館～ (平成29年～)

資料 2 - 2

## 地方創生拠点整備交付金

1. 制度の趣旨・概要  
未来への投資という観点から、地方版総合戦略に位置付けられ、地方公共団体が自主的・主体的に実施する先導的な事業に必要な施設の新設・改修を支援するもの。
2. 対象施設  
未来への投資に重点を置きつつ、地方創生の深化に向けて効果の発現が高い施設等が対象。
  - ・生涯活躍のまちの推進に資する多世代交流の拠点施設（既存施設の改修等を含む。）の整備や、移住定住促進を行う空き施設の改修等
  - ・地域コミュニティ組織の日常的な活動の場として機能する基幹的な拠点施設の整備（廃校舎、旧役場、公民館等の改修を含む。）
3. 補助率  
国：1／2
4. 地方創生拠点整備交付金を活用するための要件
  - ・施設整備計画の提出 ⇒ 平成29年4月交付決定
  - ・地域再生計画の認定（国） ⇒ 平成29年4月認定

### 交付決定後の国から求められていた作業

- ①交付決定を受けた事業の予算措置については、6月議会で措置すること。  
⇒ 6月議会で予算措置を行った。
- ②総合戦略に事業が位置付けられていること。ない場合は、平成29年度中に位置付けること。  
⇒ 平成29年度中に総合戦略を改訂し、当該事業を盛り込んだ。
- ③本交付金の効果検証及び地域再生計画（H29-33）の効果検証

## 松伏町多世代交流学習館

### 平成29年度

赤岩地区公民館を見直し、子どもから高齢者まであらゆる世代が居心地が良いと思える空間「良（居）場所」の創出を目的。  
また、町内の方々の活躍の場を提供するため、サロン等でのサークルの発表機会の提供や、ボランティア活動の場の提供、人と人とを繋げる支援を行うコーディネーターを配置し、良場所に集う方々を結び付ける「良場所・縁結び」を進め、地域のコミュニティ機能の向上を図る。

総工費：約8,640万円（※うち、国交付金約4,000万円）  
⇒ 赤岩築公民館を改修し、平成30年4月より多世代交流学習館としてリニューアルオープンした。

### 館内施設

- 1F サロン、図書室
- 2F 多世代ホール、研修室

### 【メロディカフェ】

毎週水・土曜日 10:30～15:30

### 【オレンジカフェ（認知症カフェ）】

第3土曜日 13:00～15:30

### カフェ利用者数（平成30年7月1日現在）

5月  
62人

6月  
173人